矢排 高校 就美高校

井原&備前の魅力発掘委員会

高校生ボランティア・アワード2023

【渋沢栄一氏と私たちの地元】

【活動のきっかけ】

日本資本主義の父と呼ばれた渋沢栄一氏は、NHK大河ドラマ「青 天を衝け」で波乱万丈な人生が放送された。渋沢氏の人生の転機 に関わったのが、「岡山県井原市」である。

井原市は少子高齢化で若者は外へ出ていってしまう。地元に活気 を取り戻すために、井原市内で渋沢栄一氏ゆかりの地を巡り、一 枚のパンフレットを作成した。そのパンフレットを地域の方々や井 原市を訪れる観光客に向けて配布した。

【渋沢栄一と井原市の関係】

井原市は渋沢栄一氏の 出世のスタート地点

2024年発行の新一万円札に選ばれた渋沢栄一氏。

その渋沢氏は幕末に農兵募集で訪れた井原市での成果が飛躍に つながり、滞在中に親交を深め師事したのが漢学者・儒学者"阪 谷朗盧"(さかたにろうろ)である。後に阪谷朗盧の息子と渋沢氏の 娘が結婚したという深いつながりもある。

阪谷朗盧は興譲館初代館長として若者の指導にあたった。興譲 館は興譲館高等学校として現在も存続する。そして二人が出会っ たとされる講堂も今もなお現存している。

【活動のバージョンアップ】

私たちは、渋沢氏の著書「論語と算盤」を読み、最も心を打たれた 言葉は「経済は私たちを幸せにするためにある」と言うものだ。 生涯に500の企業の設立と600の福祉事業を行った渋沢氏の根 幹には論語の思想があると知った。

日本の多くの経営者が渋沢氏が目指した「みなが富む社会の創 造」を目指したならば、日本は真に豊かな幸せな社会が実現する だろう。

そこで、岡山県備前市の閑谷学校(国宝&日本遺産)で、論語を 学ぶという渋沢氏の生き方や思想に触れてもらいたいと考える。



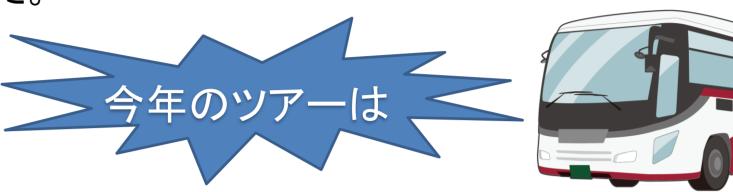






【出世のスタート井原と 渋沢氏の思想を岡山で学ぶ】

昨年は渋沢栄一氏ゆかりの岡山県井原市を巡るツアーを実現した 。しかし、NHK大河ドラマも終わり、一過性のブームに便乗するので はなく、普遍的な価値観を持ったツアーを打ち出さなければならな いと考えた。



ツアーに参加してもらいたい人たち 経営者、商工会メンバー、会社員(経営の研修旅行) 未来を担う若者

①若き渋沢栄一氏の出世のスタート地点になった 井原市内のゆかりの場所を巡り青雲の志を追体験

②渋沢栄一氏が精神の柱とした論語を 岡山県備前市に在る国宝「閑谷学校」で学ぶ

ツアーを通して感じてほしいこと

経営者や企業の責任ある立場の 人に渋沢栄一氏の説く道徳経済合 一に触れてもらい、世の中の利益 のための企業活動という視点を学 ぶ機会を提供する。



【観光プラン実施(昨年度)】

【興讓館】

興譲館は嘉永6年(1853)に 地域の子供たちを教育する ために開校。

校門に掲げられた「興譲館」 の扁額は明治45年(1912)に、

興譲館創立当時からある講堂は

面会した場所としてされており、

現在も当時のまま残っている。



朗盧と親交があった渋沢栄一氏が揮毫したもの。

興譲館の歴史を知ってもうための講義を行った。

" 次 沢 栄 一 " とわたしの 地 元 2024年、新一万円札の肖像に選ばれた渋沢栄一。「日本資本主義の父」と言われ、 NHk大河ドラマ「青天を衝け」で彼乱万丈な人生が放送されています。









【桜渓塾】

井原市芳井町簗瀬にあり、漢学 者・儒学者の阪谷朗盧が開いた

桜渓塾の朗盧を訪ねて全国から 漢学者や漢詩仲間が訪れたと 言われている。

倉敷市歴史資料整備室専門員から桜渓塾にある石碑など についての説明をしてもらった。

【山成酒造】

創業以来、酒質の向上に 努めてきた酒造。 渋沢栄一ゆかりの酒として 知られる「蘭の誉」は、論語の

「出藍(しゅつらん)の誉 (青は藍より出でて、藍よりも青し)」から命名。



【興譲館の所蔵物】

【興譲館の講堂】

渋沢栄一と阪谷朗盧が

興譲館所蔵の徳川慶喜の書や 阪谷朗盧直筆の掛け軸など 見学をさせてもらった。 一般公開していない貴重な

所蔵品を見せてもらった。



【白鹿洞書院掲示についての講義】

信義や礼節を説いた 「白虎洞書院掲示」について 興譲館高校の元校長先生に 講義をしてもらった。



【渋沢栄一展】 井原市立の資料館で 開催中の渋沢栄一展 に行き、学芸員の方 から展示物について 説明をしてもらった。



【みんなの豊かさを求めて】

みんなが幸せに暮らせる世の中に!!

厚生労働省の調査で、日本の相対的貧困率は15.4%(6人に1人が貧困状態)だ。この背景には経済成長の恩恵が一部の人々に偏って いることが考えられる。誰もが未来に希望を持ち、努力することで、経済的に豊かになれる社会の実現が必要だ。

日本の現状を学ぶうちに少子化・貧困・物価上昇・実質賃金の停滞・経済格差の拡大などを学んだ。そんな中、渋沢栄一の著書『論語と 算盤』に出会い、この1年間読み続けてきて、渋沢栄一が生涯で約500の企業と、約600の社会福祉事業を生み出したことに驚いた。と同時 に、大事業家である渋沢自身が「強欲な経済を否定し、みなが富む社会をつくる」という姿勢を生涯貫いたことを知り、感動した。日本の資 本主義は、欧米に比べ貧富の格差が比較的小さい背景には日本資本主義の渋沢の思想があったのだと思い至った。しかし、日本でも格 差が拡大してきている今、みんなが自分の利益追求だけでなく、多くの人の幸せにつながる経済活動を行っていくことが大切だと感じた。そ のために、経営者たちを対象として、渋沢の大切にした本質を体感することができるツアーを計画した。

★地域を活性化!!

多くの自治体がそうであるように、私たちの住む岡山県井原市・備前 市の両市は人口減少が進み、経済規模も縮小するとともに、観光客も 減少している。私たちは両市に「在るもの(井原市⇒渋沢ゆかりの地、 備前市⇒閑谷学校)」を活かし、付加価値を加えてアピールすることで 、訪問客の興味を引くとともに、人的交流が増加し、地域の元気を取り 戻せると確信している。

私たちの提案するツアーにおいて、まずは、井原市の渋沢栄一氏ゆ かりの地をめぐり、渋沢氏と私たちのふるさと岡山の関係に思いを馳 せる。さらに、備前市の国宝「閑谷学校」で、渋沢氏の思想の根本とな った論語を体感することができる。

このツアーを通して、より多くの人に、私たちのふるさとである井原市 と備前市の両市の文化的価値や魅力に気付いてもらいたい。





令和4年度「広報いばら」12月号より

井原&備前の魅力発掘委員会

多くの人が経済的にも精神的にも幸せに暮らせる日本にしてい くために、私達なりにできることに取り組みたいと感じ、令和3年 度から「井原の魅力発掘委員会」として、岡山県井原市が渋沢 栄一氏にゆかりのある場所だという点を観光の目玉にして地域 活性化を目指す活動をしてきました。令和5年度からは、渋沢 氏の思想の根本となった「論語」に触れることができる備前市閑 谷学校への訪問もツアーに組み込み、企画、実施をしています。 団体名も「井原&備前の魅力発掘委員会」に改めました。ツ アーを充実したものにするために、地域の商工会や、ライオン ズクラブ等にアンケート等も実施しています。経営者だけでなく、 これからの日本をつくる未来の経営者や私たちのような若い人 にも井原市や備前市を訪れてもらい、地元の活性化だけでなく 地元が元気になれるようにと願っています。

